

平成30年度 一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱
校外教育 研究の取組

研究主題

たくさんの人とのかかわりを大切にし、自他を尊重し合う共和っ子の育成

～ 豊かな体験活動を通して ～



本庄市立共和小学校

本庄市児玉町蛭川895-1

TEL 0495-72-1349

FAX 0495-73-1122

1 学校概要

共和小学校は、埼玉県北部本庄市内南部（旧児玉町）に位置し、田園風景が広がる非常に教育環境の良い地域にある創立145年目を迎える歴史と伝統を有し、地域に支えられた学校である。児童は明るく素直である。平成21年度に発足した学校応援団は、多くの地域の方の参加により学校ファーム、安全ボランティア、読み聞かせなど特色ある学校づくりを支援している。平成30年度から、これまで築き上げた学校と地域の密接な連携をさらに進展することをねらい、学校運営協議会を発足し、コミュニティースクールとして新たなスタートを切った。

学校教育目標は、以下の様に定めている。

学校教育目標

- ◎ なかよく （友だちを大切にする児童）
- ◎ かしこく （進んで学習する児童）
- ◎ たくましく （体をきたえる児童）



この学校教育目標を実現するために、教職員一人一人の総力を結集させ、181人の宝物をやさしく育てている。

2 校外教育とは

共和小学校としては、学習の場として校外を用いる教育の一方法であり、個人の知識（knowledge）、技能（skills）、態度（attitudes）の変化向上を目的とする教育活動を校外教育と定義した。この時、校外を教室の外と捉え、学校外に児童を連れ出している教育活動だけではなく、学校の敷地内での活動も含めることとした。

そして、校外教育の種類を次の4つの視点で行うこととした。

- (1) 体験を通して五感に直接働きかける「校外における教育」
- (2) 共同生活や様々な活動で個人を伸ばすような「校外での教育」
- (3) 教科にこだわらず自然や社会・文化について総合的に学ぶ「校外についての教育」
- (4) 人間と自然との望ましい関係やありかたについて学ぶ「校外のための教育」

3 児童の実態

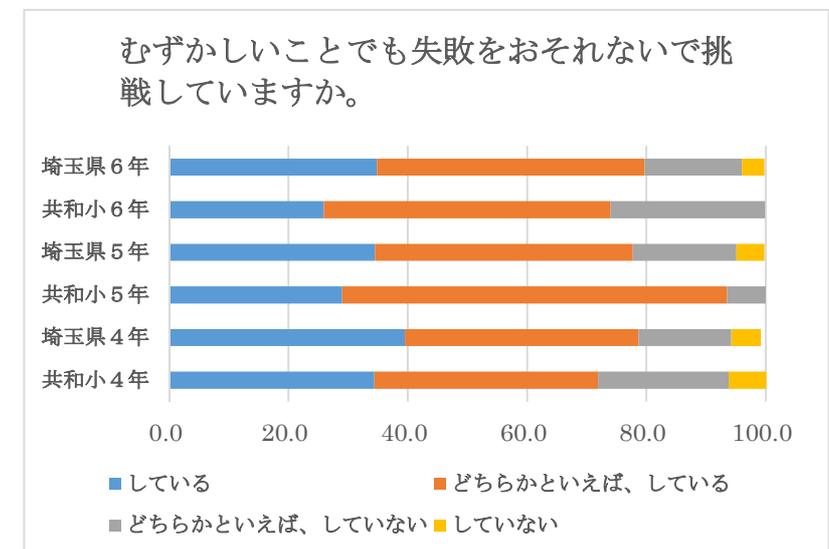
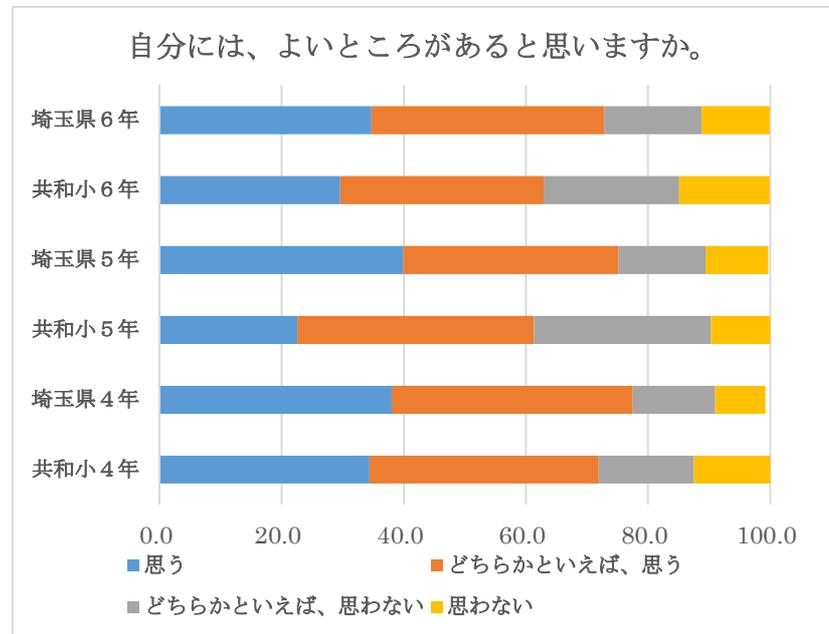
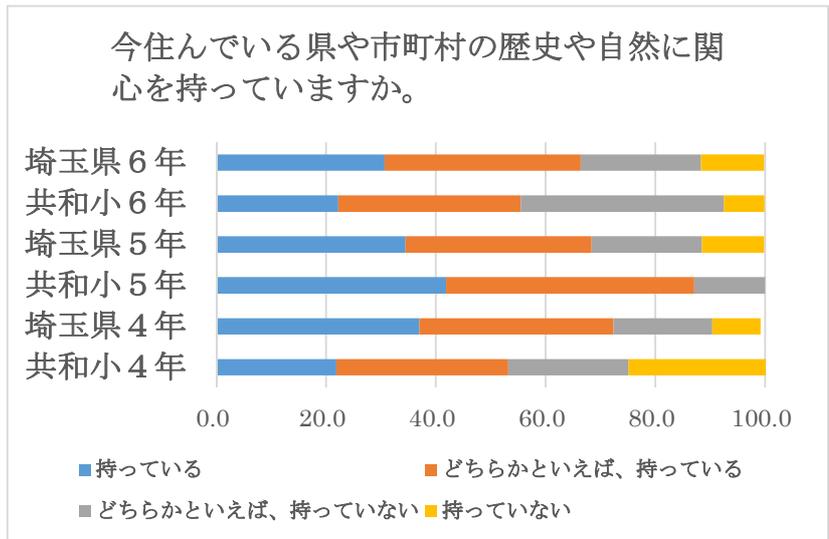
このグラフは、平成30年度に実施された埼玉県学力学習状況調査の質問紙の回答である。その中から特に本校児童の特徴が顕著に表れている質問項目についてその考察をしてみた。

「今住んでいる県市町村の歴史や自然に興味を持っていますか。」という質問紙では、5年生の高い関心度に対して4年生と6年生の回答が県平均を下回っている。特に、4年生の回答には、「関心を持っていない」回答する児童が県平均値と比較して約20ポイント多くなっていることが特徴的である。

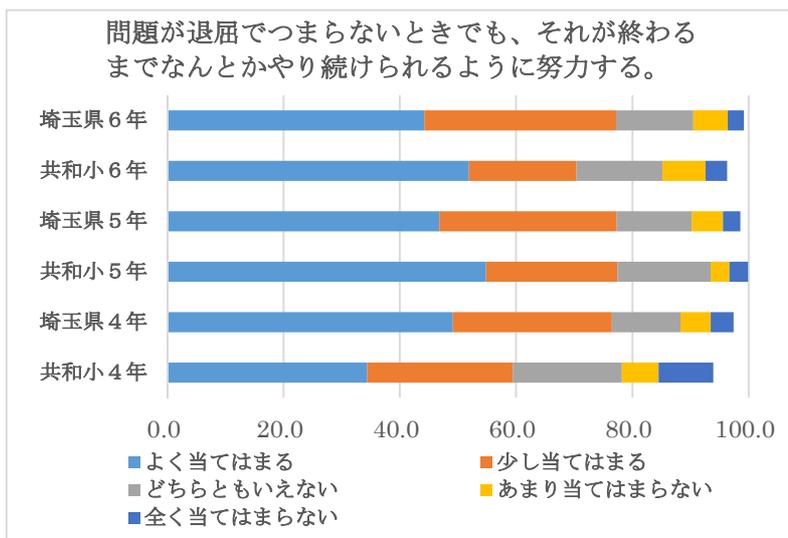
「自分には、よいところがあると思いますか。」という質問紙では、全ての学年で県平均より下回っている。自尊心を校外教育の研究委嘱を受ける中でどの様に高まっていくのか研究に対する期待が高まっている。

「むずかしいことでも失敗をおそれないで挑戦していますか。」という質問紙では、5年生が県平均値を大きく上回り頼もしいが、4年生6年生は、県平均値より下回っている。

「問題が退屈でつまらないときでも、それが終わるまでなんとかやり続けられるように努力する。」という質問紙では、全ての学年で県平均値を下回っている。本校児童が、粘り強く物事に取り組んだり、地道な努力をしたりすることに対して前向き



に支援することが課題となる。校外教育には、それらの課題を克服させるための要素である観察・実習・成果物の作成等たくさんの効果的な体験活動が実施できるので、これらの活動を意図的計画的に教育課程の中に位置づけていきたい。



4 具体的な実践

(1) 体験を通して五感に直接働きかける「校外における教育」

- ・学校ファームの取組（野菜を育て、給食でいただく）



収穫体験



自校給食の食材として生かす

学校ファームで育てている野菜

タマネギ、長ネギ、ハクサイ、キャベツ、ダイコン、ジャガイモ、サツマイモ、カボチャ、のらぼう菜、カブ

・ 1、 2年生の生活科バッタ取りの授業から図画工作の授業へ

バッタ取りの体験は、なかなかバッタを採ることのできない児童やせっかく捕まえても虫かごに入れようとしてもバッタを触ることが出来ずに逃がしてしまう児童等、体験不足の実態が見られる活動であるが、この体験を通してたくさんの経験をしている。体験後は、その感動を忘れないうちに図工の時間に絵を描き、感動定見の深化を図っている。



(2) 共同生活や様々な活動で個人を伸ばすような「校外での教育」

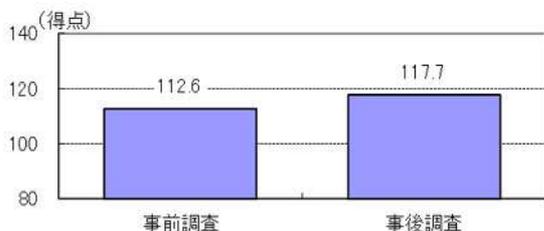
・ 5年生林間学校



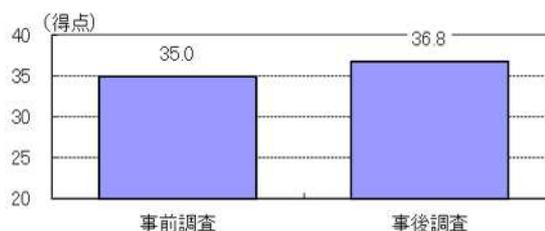
アドベンチャー教育とは、①身近な場所で簡単な道具を使って行う冒険的な活動②本格的な設備を使って行う活動を通して、人が人間として成長するための「気づき」を効果的に体験する体験学習法の一つである。

今回のアドベンチャー教育活動を実施するにあたり、I K R 評定テスト（生きる力に係る評定テスト）を事前事後に実施して、心の変容を数値的に明らかにした。

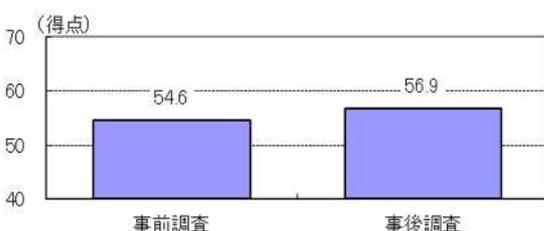
生きる力の変容



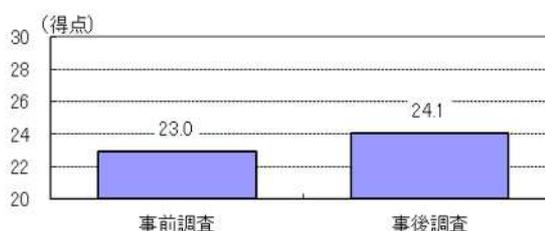
心理的社会的能力の変容



徳育的能力の変容



身体的能力の変容



生きる力の変容では、事前調査から事後調査にかけて 5.1 ポイント向上が見られた。

反面、「自分のことが大好きである」「だれにでもあいさつができる」等の自己肯定感に関するポイントの向上は顕著ではなかった。

心理的社会的能力の変容では、「自分からすすんで何でもやる」「前向きに物事を考えられる」等の積極性と、「だれにでも話しかけることができる」「失敗しても立ち直るのがはやい」等の明朗性に関するポイントの向上が顕著であった。

徳育的能力の変容では、「自分かってなわがまを言わない」「お金やモノのむだ使いをしない」等の自己規制に関するポイントの向上が顕著であった。

身体的能力の変容では、「早寝早起きである」「からだを動かしても疲れにくい」等の日常的行動力に関するポイントの向上が顕著であった。

・全校縦割り遠足

コミュニケーション能力の向上と好ましい人間関係調整能力の向上を目指して、全校縦割り遠足を平成30年度から実施している。12の縦割り班の別れ6年生が中心となり、あらかじめ教員が事前踏査した目的地の中からルートを選択して、児童の主体的な活動を育成することを狙った。



(3) 教科にこだわらず自然や社会・文化について総合的に学ぶ「校外についての教育」
・ 6年生吉田林獅子舞のお囃子体験

共和地区に伝わる伝統芸能の一つに「吉田林獅子舞」がある。今まで、共和小学校の児童たちは地域の文化に触れる機会がないことを知り、地元有志の皆さんのご協力を得て2年前からお囃子の体験学習を行っている。



・地域学習

地域のことを知ることが、生活科や社会科の学習には欠くことが出来ない。そこで、2年生は、学区内にある農産物直売所、駐在所、認定こども園、日帰り温泉施設などの見学をグループごとに実施している。また、3年生は地域学習の一端として、農家の見学を実施し、茄子の収穫体験をしている。



駐在所の見学（2年生）



なすの収穫体験（3年生）

（4）人間と自然との望ましい関係やありかたについて学ぶ「校外のための教育」

・緊急時炊出し訓練

共和小学校は、本庄市指定の緊急時避難所に指定されている。しかしながら、防災倉庫もなければ、学校には緊急時に避難者が訪れても備蓄している救援物資のないことが現状である。公助としての救援物資を受けるまでは、共助の精神で地域住民が協力し合い難局を乗り越えていかなければならない。しかし、知識や技術に係る日頃の意識や準備がなされていなくては、いざという時に対応ができないのが現実である。そこで、2年前から緊急時の炊出し訓練をPTAとの連携のもとで実施している。実施日は、保護者の参加率を確保することを考え、夏季休業中の奉仕作業日に設定した。今年度は、鍋でご飯を炊く方法と広告紙とビニール袋を使った応用皿でカレーライスをつくり試食をした。併せて、本庄市の危機防災課の職員を招聘して研修も実施した。



・環境教育

人間と自然との望ましい関係やありかたについて学ぶ「校外のための教育」に欠くことのできないプログラムが環境教育である。共和小学校では、以前から埼玉県県土整備事務所との連携を通して川の応援団事業に取り組んでいる。活動内容としては、総合的な学習の時間における女堀川の美化活動と地域の河川等の水質検査を親子で実施している。

また、本庄市の地域一斉清掃活動にも参加し、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に取り組んでいる。

<川の応援団活動の趣旨>

- (1) 女堀川の様子や河川の状態を知り、身近な環境問題について向き合う。
- (2) 陣見山から流れ出る川の様子を観察する。
- (3) 集団行動を通して、互いに協力し合う態度を育てる。



<地域一斉清掃>

環境美化運動とコミュニティ活動の推進を深める住民全体の事業として全市一斉清掃協賛し実施している。



4 今後の展望

- (1) 同じ調査を年度末に実施して、どのように児童の意識は変容したかを比較する。
- (2) 視点を明確にした校外教育を引き続き全校職員で実践する。